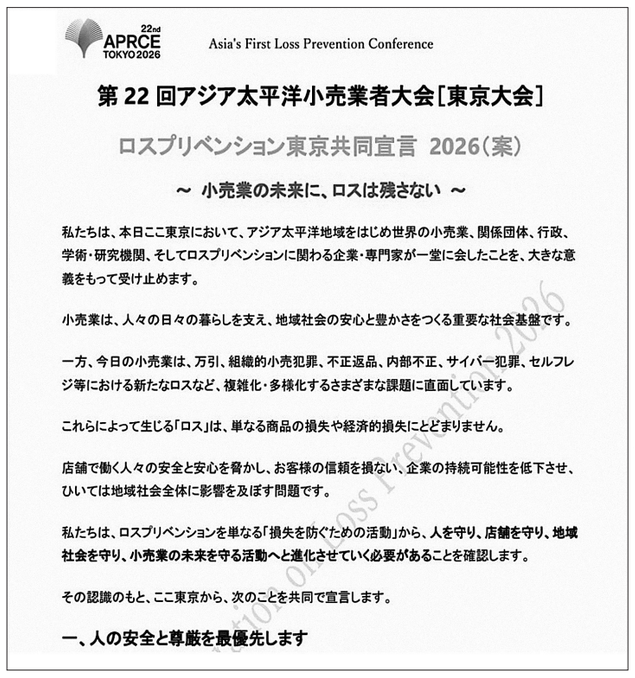
ロスプリベンションへの道4 協働防犯(29)

ソーシャル・キャピタルをLP東京共同宣言2026に織り込む

工業会JEASは日々の研鑽の場で具現化する



観点	CPTED(防犯環境設計)	ソーシャル・キャピタル
基本的な考え方	環境・空間を整える	人と人とのつながりを重視する
店内の監視性	店内の死角を減らす	店員が顧客に挨拶し、自然な見守りを行う
売場づくり	商品棚を適切な高さにし、売場を見通しやすくする	店員同士で情報を共有し、売場への関心を高める
高リスク商品への対応	高リスク商品を適切に配置する	防犯上の注意点やノウハウを店舗間で共有する
店舗全体の見守り	レジやサービスカウンターから売場を見やすくする	警察・学校・地域・商店街などが連携する
店舗と地域の関係	出入口や動線を適切に設計し、領域性を明確にする	地域住民に「自分たちの地域の店」と認識してもらう
目指す状態	「万引しにくい店」をつくる	「万引を見過ごさない地域・関係」をつくる
防犯の力	場所の力	人・地域の力

○ロスプリベンション会議東京の共同宣言作成に向けて

10月9日（金）に開催されるアジア太平洋小売業者大会・ロスプリベンション（以下LP）会議の共同宣言案のなかに「再犯防止に向けての連携やhogoshi（保護司）」と「災害時の協働」を加えた。9月26日（土）朝のことである。当初案では防犯環境設計（CPTED）に重きを置いたが、ソーシャル・キャピタルとの両立を念頭におき、そこから紡がれる相乗効果を宣言としてまとめることにした。

防犯環境設計は、見通し、照明、動線、アクセス制御など物理的環境を工夫し、「犯罪をしにくい場所」をつくる考え方である。一方、ソーシャル・キャピタルは、人々の信頼、つながり、規範、情報共有や助け合いを通じて、「犯罪を許容しにくい社会」をつくる。両者は相互補完的で、CPTEDによる安全で利用しやすい環境は人々の交流や自然な見守りを促し、地域のつながりは環境の維持管理や防犯活動を強化する。この循環によって総合的効力感が高まり、店舗や地域全体の犯罪抑止力が向上すると考えられる。宣言案には防犯環境設計やソーシャル・キャピタルという用語は用いなかったが、その意図するところは織り込んだ。

○万引防止対策に活かすソーシャル・キャピタル事例

さらに、これを分かりやすく万引防止に置き換えて整理すると、左のような表となる。CPTEDは「見られる環境」をつくり、ソーシャル・キャピタルは「見る人・気にかける人」をつくる。そして両者を組み合わせることで、「見られる環境」×「気にかける人」＝店舗と地域が一体となった持続的な万引防止になっていく。

○工業会JEASは日々の研鑽の場で具現化する

ソーシャル・キャピタルをLPに活用することは、概念論でも外国の事例でもなく、我々が実践しなければならない責務だと思う。ちなみにJEASの会議では、初めての皆様が一番前に、会議の場では皆平等、ざっくばらん、遠慮なしがJEAS流なのである。先日初めて理事会を傍聴された方から、その晩「会長のお人柄で、協会の雰囲気もそうですが、皆様とても親しみ易く、初めて参加したとは思えない位に色々と話ができました。」というメールをいただいた。人と人とのつながりを重視することから事が始まる。時代が動く。

◆8月7日(金)第4回ファミリーセミナー2026「アポロ13号あなたは（計算尺を使って）無事に地球に帰還できるか」を高千穂交易㈱のセミナールームで開催した。この企画は総会員数60社達成を記念して行われた2024年の第1回ファミリーセミナー「電波ってすごい　ゲルマニウムラジオ手作りセミナー」から続く企画で、「子供達に数学や科学技術の言い知れぬ感動を伝える」を合い言葉に開催されている。

今回のセミナーでは親子が3チームに分かれ、下記のミッションをクリアして無事に地球に帰還しました。特に計算尺が使えたときは、「すごい！すごい！」と親子で歓声が上がった。会員数70社達成と創立25周年にふさわしい楽しい学びの場となった。

ミッションの概要

発射前　本日のプログラム配布、スライドショーを見る。

1．宇宙への挑戦　人類はどうして宇宙へ行こうとするのか

（1）チーム分け・担当

交代

（2）アルテミス計画から考える【ミッション1】

（3）宙船の模型をよく観察し、情報カードを参考にして、宇宙船の仕組みを考えてみよう。

2．最初の決断　進むのか、戻るのか

（1）何が起きたのか。問題は何か。進むか戻るのかを判断する。【ミッション2】

3．軌道修正は成功するか

（1）円形計算尺の使い方

（2）軌道修正の計算を行う。【ミッション3】

4．最後の危機　どう乗り切るか【ミッション4】

船内の二酸化炭素濃度をどのように下げるか。管制センターが作成した装置を実際に手に取り、分解しながら、その仕組みを考える。

5．リーダーシップ【ミッション5】

アポロ13号の映画のセリフを3人で読み上げ、感じたことを共有する。

6．地球への帰還【ミッション6】

ワークショップで印象に残ったことをチームで話し合い、船長が発表する。

7．ミッション終了後の交流タイム　自由解散

お土産は計算尺、アポロ13号ペーパークラフト、ジュニアサイエンスバッジ等

◆7月24日（金）第9回JEAS検定講習会をハイブリッド開催した。今回はソースタギング・電波法・電安法とセルフレジ不正対策冊子の説明を行った。これで今までの累計参加者数が217名となった。参加者の心に残った総括コメントをお伝えしたい。「見る人・気にかける人」の言葉である。

……

杏林社の清永です。私はロス対策のことが知りたくて5年前にJEASに入会し、その後このJEAS検定講習会を受講しました。しかしながら、僕らからしたら敵対する企業さんもたくさんいて、情報共有って本当にしてもらえるものかと思っていました。それがどうでしょう。これが思いのほか本当に優しく、いろんな専門家に、くりかえし売り方、技術面、関係法令などをご教示いただいています。今は総務委員会に所属させてもらい理事にもなることができ、広い知見、深い智慧を学んでいます。この講習会もそうですが、社内だけで、どうしても解決できないことを、相談できる会だなって実感しています。

さて、10月16日に第6回科学保安検定講習会があります。本日、本日学んだ講習会の上位クラスです。今日の午前中も、私はこれらの講習会の修了認定証と名刺を持参し、新規のユーザー様と打ち合わせを行いました。これがその際の認定証です。結びに、受講生も、講師も、皆さま、お疲れさまでした。

清永理事よりの総括

◆8月21日（金）21名が参加し、第2回交通機関と関連店舗の保安強化プロジェクト情報交換会議を開催した。

オブザーバーとして国土交通省鉄道局総務課危機管理室が参加された。こちらが参加企業と参加者の意見である。参加者からは、今まで知らなかった知識や情報を学べたとの声があった。

【発表順】企業名は略称

キヤノンMJ：NETIS登録製品　コンクリ部材・鋼部材の画像からAIで変状を検出

セーフィー：NETIS登録製品　駅施設や無人駅の警備、本線や施設の点検等

サイエンスアーツ：NETIS登録製品　鉄道関係のコミュニケーションプラットフォーム事例

パナソニックコネクト：NETIS登録製品　エッジAI（画像センシングBOX）

ダイワ通信：ugoPro連携、国際線エリアの警備・案内業務を効率化

アクシスコミュニケーションズ：NETIS登録製品　国内の鉄道事例

i-PRO：NETIS登録製品　無線通信ユニットを搭載したカメラのソリューション事例

Casley Deep Innovations：データ共有を安心安全に行える次世代の機密分散型ストレージ。

パトライト：NETIS登録製品　公共交通機関事例、メール検知事例

【参加者意見（一部）】

・今まで他社様の製品を学べる機会がなかったので、たくさんの技術進歩があったことに驚きです。

・画像を使った見守り機器の「安全面の規格」を官民一体で整備する必要があると思います。できれば、それをJEASが発起人となって推進すべきだと思います。

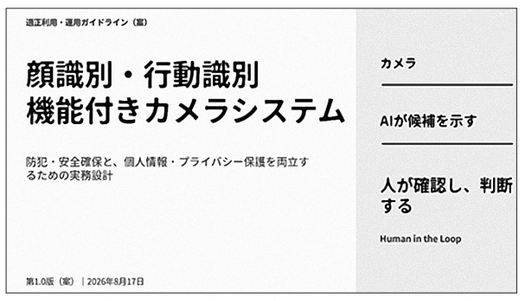
・TBSテレビ日曜劇場『VIVANT』でカメラがAIにハッキングされているが、そんなことがあってはならない。

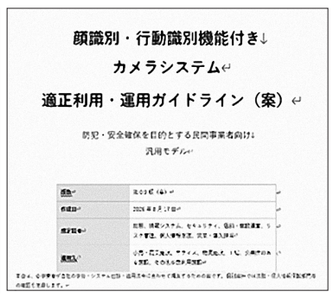
・同業間でこのような協働の学びの場があるのがJEASの魅力です。実際、ここから新たなソリューションが生まれています。世の中が安全になって、うれしいね、うれしいな、と感じました。

◆9月18日（金）15：00～17：00に高千穂交易（株）セミナールームとオンラインを併用して第3回理事会・勉強会（ハイブリッド形式）を開催し、最初に新会員の（株）キッズウェイに会員証とJEASバッジが贈呈された。

理事会では、顔識別・行動識別機能付きカメラシステム適正利用・運用ガイドライン（案）と確認用テスト問題を確認し、『JEAS認定個人情報利活用エキスパート（個情委主催の対象事業者研修を修了した者）』の新バッジを承認した。

勉強会は、i-PROの大熊氏から『エッジ記録型クラウド録画サービス「i-PRO Remo.」』と設置図面を楽々作成システムデザインツール」について学び、続いてWind River社の遠藤氏から、エッジAIカメラ・端末組み込みと複数OS・混在ワークロード統合の未来像について説明を受けた。どちらも製品だけでなく新たな人のつながりを予感する内容となった。





【理事会・勉強会の参加者の声（一例）】

・JEASメンバーはロス対策士試験を割安で受講できます。合格者には図書カードが贈られます。

・このデザインツールは非常に勉強になりました。アクシス社もこういったツールがあり、お客様の先で、一緒に映像やMAPを見ながら打ち合わせをしています。

・i-PRO社のミリ波レーダーを使った大型セキュリティ案件は正式な契約を済ませ、11月に納品予定です。

・10月の科学保安検定講習には当社から2名が受講します。

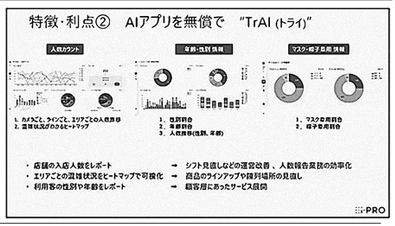
・講習にはすごく関心があり、ウチは役員なども受講いたします。

・来年6月4日の通常総会にはロスプリベンションに関係する古武道や歌劇に関する内容で協力させていただきます。

・ロス対策士テキストに、JEAS画像利用Q&Aを入れたい。

・各種の環境センサーや濃度センサーのニーズが高まっているので、どなたか情報をいただきたいです。

・AIカメラで人の回遊を分析する会社ですが、11月にJEASに入会しますね。



◆9月25日（金）アジア太平洋小売業者大会・展示会「RETAIL EXPO Tokyo2026」に出展する大手POSレジメーカー2社とNHKの解説委員と意見交換をした。今後もフルセルフレジの省力化と不正対策の両面で新たなAIや秤の技術が進むことを確認した。2025年スーパーマーケット年次統計調査報告書を見ながら対策状況を確認した。

総じて大手チェーンほど新技術の導入が進み、小規模店舗はなかなか新技術の導入が進まない現状を踏まえ、「不正対策付きフルセルフレジ」の導入に際し、補助金制度や税制優遇制度があれば中小規模の店舗でも導入が進むのではないかと考え、「経済民主主義」と「防犯民主主義」の視点から、その晩、主務官庁の経済産業省　商務情報政策局　情報産業課に補助金制度や税制優遇制度に関する相談のメールを送った。

○世界から注目される「hogoshi（保護司）」制度

2021年の第14回国連犯罪防止刑事司法会議（京都コングレス）では「京都宣言」が採択され、再犯防止、官民・多機関連携、地域社会の参加の重要性が国際的に共有された。その成果は「再犯防止に関する国連モデル戦略（京都モデル戦略）」へ発展し、2025年に国連犯罪防止刑事司法委員会で採択された後、同年12月18日に国連総会で採択された。そこには日本独自の更生保護ボランティアである「hogoshi（保護司）」も盛り込まれた。保護司は、地域の信頼・つながりを犯罪防止や社会復帰に生かす存在であり、ソーシャル・キャピタルを具体化した日本型の取組の一つと捉えることができる。

京都コングレスの展示パンフレットの19ページには、工業会JEAS（日本万引防止システム協会）が掲載されている。日本の防犯団体のなかで唯一掲載されている組織である。その責務を踏まえ、今回のLP会議で東京共同宣言2026を発出したい。

結びに、万防時報の15頁にアジア太平洋小売業者大会のLP会議と展示会場のJEASブースについての広告が掲載された。展示会場では万防機構とJEASメンバーがブースに立ち、国内外の小売業者などの皆様と情報交換する予定である。冒頭で触れた『ロスプリベンション東京2026の共同宣言』は次の言葉で結ばれている。その志を胸に秘め。

結び

ロスを減らすことは、利益を守ることだけではありません。

人を守ることであり、信頼を守ることであり、地域社会を守ることであり、そして小売業の未来を守ることです。

私たちは今、ここ東京に集ったすべての仲間とともに、「安全で、安心できき、持続可能な小売店舗の営み」の実現に向けて、国境を越えて行動していくことを宣言します。2026年10月9日

東京第22回アジア太平洋小売業者大会ロスプリベンション会議　参加者一同

宣言の全文及びプレゼン動画はこちらを参照されたし。

Original

Presentation

全国万引犯罪防止機構（通称：マンボウ）

万引撲滅のための戦略を本気で提言・実践する小売業界を中心に組織化されたNPO法人

文：事務局（稲本義範）

セルフレジ万引きの防犯対策実施状況（複数回答）/企業分類別

		n	セルフレジ付近にカメラを設置	セルフレジ付近にAIカメラなど（不正監視）を設置	セルフレジに重量把握センサーを設置	セルフレジの近くにレジ従業員を配置し、目視・レシート確認	セルフレジの出口にゲートを設置	お客様への声掛け（ウォーキングアテンダント）	その他
回答企業全体		168	86.3%	9.5%	11.9%	54.8%	10.1%	45.8%	-
企業分類別	1～3店舗	31	83.9%	6.5%	3.2%	35.5%	6.5%	16.1%	-
	4～10店舗	37	75.7%	10.8%	5.4%	45.9%	8.1%	51.4%	-
	11～25店舗	41	87.8%	9.8%	17.1%	53.7%	9.8%	48.8%	-
	26～50店舗	27	96.3%	11.1%	11.1%	66.7%	7.4%	40.7%	-
	51店舗以上	32	90.6%	9.4%	21.9%	75.0%	18.8%	68.8%	-
	小規模店舗中心型	46	76.1%	8.7%	4.3%	47.8%	8.7%	41.3%	-
	中規模店舗中心型	32	90.6%	12.5%	3.1%	43.8%	6.3%	43.8%	-
	大規模店舗中心型	58	93.1%	6.9%	20.7%	63.8%	13.8%	53.4%	-
	複合型	27	85.2%	11.1%	18.5%	63.0%	11.1%	37.0%	-
	都市圏	47	85.1%	12.8%	10.6%	53.2%	12.8%	57.4%	-
	地方圏	121	86.8%	8.3%	12.4%	55.4%	9.1%	41.3%	-

出典　https://www.super.or.jp/wp/wp-content/uploads/2025/10/2025nenji-tokei-detail.pdf

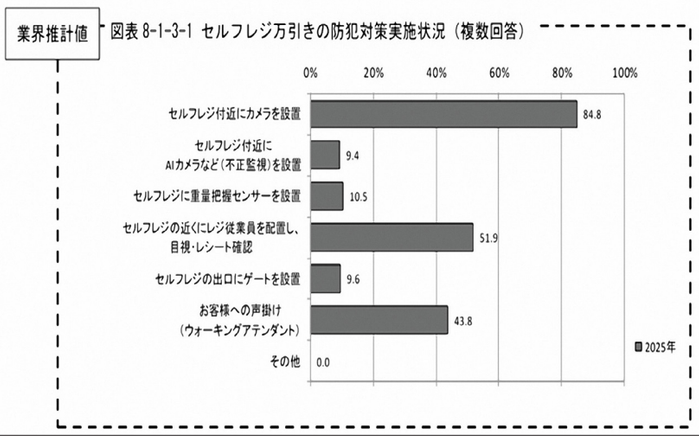
セルフレジ万引きの防犯対策実施状況

● 8割以上の企業が「セルフレジ付近にカメラを設置」している。

セルフレジ万引きの防犯対策実施状況については、「セルフレジ付近にカメラを設置」が84.8%で最も高く、次いで「セルフレジ近くにレジ従業員を配置し、目視・レシート確認」51.9%、「お客様への声掛け」43.8%の順に続いている。

業界推計値

図表 8-1-3-1 セルフレジ万引きの防犯対策実施状況（複数回答）



On-site —
On-line hall 3

Japan Association of Electronic Article Surveillance Machines

~ For the realization of crime prevention democracy ~
Industry Association for EAS Equipment, Security Cameras and Loss Prevention Promotion

Address
7F, 1-6-1, Yotsuya, Shinjukuku, Tokyo

Official Website
https://www.jeas.gr.jp/
https://www.jeas.gr.jp/en/index.html

Industry association JEAS is a trade association for companies that manufacture, sell, and support anti-shoplifting systems. We work in cooperation with government agencies and related industry groups to play a role in the sound management of the distribution industry, also to play an industrial and social role in preventing delinquency and elderly shoplifting.

Since 2018, JEAS has become an industry association for electronic product monitoring equipment and security cameras (No. 149), and are growing into the only solution organization that promotes the prevention of shoplifting and other store crimes and loss prevention together with members of face recognition manufacturers, security businesses and retail support fields.

Sep30, 2020: Become a certified personal information protection
※organization certified by
※Personal Information Protection Commission, Government of Japan.